中山古墳群発掘調査報告書

昭和57年３月

石見町教育委員会

発刊にあたって

中山古墳群は昭和51年に一部発掘調査を実施し、この大規模な古墳群の性格についてある程度判明したもののその調査は花木団地造成工事に伴なう造成部分に限られた緊急発掘調査であり、全長1Km に及ぶ丘陵上に連なる81基をこえるこの古墳群の性格についてはまだまだ不明の点が多い。そこで今回は前回の調査結果をふまえてこの古墳群の成立した年代、性格などをより明らかにするために行なったものです。あわせてこの古墳群の存在する中山丘陵の地積や所有者なども調査し、今後の中山古墳群の保存と管理計画策定の資料として役立てようとしたものです。

調査は門脇俊彦氏を主任調査員として行なった。バケツ一杯の水を何百mもの道のない急斜面を運び上げたり、川砂を砂袋につめて背負い上げ、何日もかけてトレンチを埋めもすなど暑い最中の山頂での発掘作業は想像以上に厳しいものであったと思います。ここに調査報告書を発刊することができたことに対し、調査員の方々はもちろん、発掘作業員としていろいろとご協力いただいた地元の方々に厚くお礼申し上げます。教育委員会としてはこの調査の成果を今後の中山古墳群の管理に十分活用するつもりでありますが、あわせてこの報告書が広く文化財関係者の研究の一助になれば幸いに存じます。

昭和57年3月

石見町教育委員会教育長　森　脇　安　治

例　　言

1．この報告書は石見町が昭和56年度国庫補助事業として実施した中山古墳群詳細分布調査の報告書である。

2．この調査は下記のような調査体制で行なった。

主任調査員	門　脇　俊　彦（松江市立浅田小学校教諭）	
調　査　員	尼　川　尚　明	
〃	岡　本　　貢	
〃	駅　場　春　樹	
〃	石　橋　典　夫	
〃	吉　川　　正	
調査指導	島根県教育庁文化課	
事　務　局	石見町教育委員会教育長	森　脇　安　治
	社会教育係長	土　井　久　夫
	主　事	児　玉　昭　江

3．本書の執筆は主任調査員、門脇俊彦が行なった。

4．本書の編集は土井久夫が行なった。

目　　次

1．位置と環境……3

2．調査に至るまでの経緯……5

3．発掘調査の概要……5

4．D23号墳の概要……6

5．小　　結……9

中山古墳群発掘調査について

主任調査員　門　脇　俊　彦

1．位置と環境

中山古墳群は、島根県邑智郡石見町大字中野の中山丘陵に所在する。石見町は石見国の東南に位置し、石見高原の一角を占める矢上盆地をその中心としているが、中山丘陵はこの盆地の東北端に所在する独立丘陵で、南北に伸びる約 1.3 Km　長さの主脈とそれに付随するいくつかの支脈とから成っている。丘陵の標高は約 210 m、 水田面との比高は30～35mを測る。

この丘陵上で現在確認されている古墳は約80基であるが、調査以前に造成工事によって大きな支脈が失われているし、主脈の南端と北端で確認されている中世の山城跡の地点での分布はいちじるしく稀薄であるので、築城に伴なう削平工事によって多数の古墳が破壊されているものと思われ、当初はさらに多くの数であったろうと推測される。後世の二次的な造成を受けていない地点での分布の在り方から類推すれば、その数は 150基を降らないものと思われ、山間部としては正に驚異的な基数による一大古墳群であるといえよう。しかも、隣接する丘陵にも同様の古墳がさらに数10基確認されているので、これらをも合わせるとその数は 200基にも及ぶのである。また、昭和51年にこの丘陵の一部が発掘調査され、土壙９・石蓋土壙１・箱形石棺３の無墳丘の墳墓が７基の溝状遺構を伴なって確認されており、このような無墳丘墓が丘陵一帯に築造されているとすれば、ここでの被葬者の数は推測することさえできない程である。

矢上盆地は、その東に隣接する出羽盆地（瑞穂町）と地勢的なまとまりをもっていて、両盆地を合わせて所謂邑智高原を形成している。それだけに、この両盆地に所在する古代遺跡の様相も、決して異なった姿をよこたえてはいない。邑智高原には、現在集落跡約60ヶ所・古墳20数ヵ所（基数ではない）・弥生墳墓２ヵ所・須恵器窯跡10数ヵ所等の古代遺跡が確認されている。主要な集落跡を時期別にみると、縄文８、弥生前期４、弥生中期７弥生後期９、古墳前半期22、古墳後半期54となる。これらの数字の合計値は遺跡数の約１．８倍となるが、これは長期間継続した集落がかなりあるためである。弥生前期の集落跡は、矢上盆地の余勢野原遺跡と出羽盆地奥部の牛塚原遺跡・順庵原遺跡・淀原遺跡の４ヵ所が確認されていて、２地点の狭い範囲に集中しているのに対し、中期から後期にかけては遺

跡数の増加とともにその分布範囲が両盆地の一円に広がっていることが注意され、この時期にいちじるしく居住範囲の拡大をみた事実を指摘することができる。この事実は、弥生時代の全期間を通じて邑智高原にも水田農耕が浸透し、人口の増加と水田の拡大化を招来した帰結として理解できよう。中山丘陵の西前面に当たる仮屋遺跡からは、大正３年に扁平鈕式と突線鈕式との２口の銅鐸が一括出土しているが、この銅鐸も、弥生時代の邑智高原で開田作業を目的として成立した共同体のシンボルと解することができるし、出羽盆地奥部の順庵原段丘の先端に築造をみた弥生後期の順庵原１号基（我国で最初に発見され調査された四隅突出型方形墓）もこのような共同体の支配者の奥都城であるといえよう。

ところが、古墳前半期の中頃（５世紀初頭頃）になると集落数はそれまでの約 ２．５倍に増大し、しかも各遺跡の規模がいちじるしく拡大してくる。邑智高原における集落跡のこの急激な変化は、地域社会内の自然的動向として理解することは困難でありそこになんらかの社会的変革を想定せざるを得ない。集落跡にみられるこのような不自然さは、古墳後半期に至って再度現れてくる。この時期になると、集落数はそれまでよりもさらに約2．5倍の増加を示して一挙に54ヵ所に急増する。しかし、この時期には遺跡規模はいちじるしく縮小して大集落の分解による集落の分散化の様相を示している。このように、邑智高原においては弥生以降の集落跡の動きの中に２度の社会的変革を見出すことができる。

一方、20数ヵ所を数える古墳の時期についてみると、19ヵ所が横穴式石室を主体としたものであり、３ヵ所が横穴であって、邑智高原の吉墳の大部分は後期古墳である。しかもそれらはいずれも７世紀前半の築造にかかるものであり、この地方への須恵器の普及もほぼ時期を等しくしている。もっとも、中山古墳群中の一古墳から出土したと伝えられる樽形瓶１個が現存しているし、出羽盆地の良尾原遺跡からもやや古い様相をもつ蓋杯が１個出土してはいるが、影しい数にのぼるこの地方から出土した須恵器のうち２個であるのでこれをもってこの地方への須恵器の普及を７世紀前半に求めることを否定することはできない。

ところで、邑智高原への後期古墳や須恵器の普及は、集落跡の動きから汲み取れる２度目の社会変革とほぼ時を等しくしているのであり、これらの担い手となった人々は、村落分解によって生じた新しい共同体の支配者層であったと思考されるのである。また、後章において詳述するところであるが、５世紀初頭頃に生じた社会変革と中山古墳群の成立との間にも密接な関連があるものと考えられるのであり、邑智高原における２度にわたる古墳の普及は、いずれもこの地方の社会変革に伴なった現象として把えることができる。中

山古墳群の解明に当たっては、前述したような社会的背景を基盤として思考されなければならない。

2．調査に至るまでの経緯

中山丘陵に古墳の存在が知られるようになったのは昭和36年のことである。それは、この年の秋、丘陵の北辺斜画で牧草地造成の際に古墳が発見されたことを知った筆者が、現地調査して６基の箱形石棺墓と１基の石蓋土壙墓の存在を確認してこれに大峠山吉墳群と名付け、世に紹介したことによる。その後、昭和44年には吉川正氏が丘陵南端部頂に露呈する箱形石棺墓１基を発見してこれに中山古墳と名付け、丘陵の南北両端に古墳の存在が明らかとなったが、この時点では、これだけ多数の古墳が丘陵の全域にわたって群集していようとは予想だにされてはいなかった。

昭和51年に至り、同48年から４ヵ年の継続事業として進められていた団体営中山農地開発事業に伴う造成工事が中山古墳にも及ぶことを知った吉川正氏が、石見町教育委員会に通報して善慮方を依頼する一方、丘陵全体の分布調査を実施した結果、一大古墳群の存在がはじめて注目されるところとなったのである。知らせを受けた石見町教育委員会では、早速工事担当の石見町土地改良区等関係諸機関との調整を図る一方、県教委とも協議を重ねてこれが取り扱いについての方向を打ち出した。それは、丘陵を便宜上Ａ～Ｄの４地区に分け、工事に関係のないＤ地区を除く３地区について、Ｃ地区は計画変更して古墳の全面保存を図り、ＡＢの２地区は発掘調査を実施するというものであった。また、工事対象から除かれることになったＣ地区とＤ地区については、今後において将来的な保存計画を図ることとした。この結果、昭和51年８月から同年11月に至る間、ＡＢ地区の発掘調査が実施されて古墳６・土壙９・石蓋土壙１・箱形石棺３・溝状遺構７の５種26の遺構と方形板革綴短甲１・鉄斧１・古式師土器多数の遺物類とが検出された。この調査の結果は『中山古墳群発掘調査概報』にまとめられ、1977年に石見町教育委員会から刊行されている。

一方、地元石見町においてはＣＤ地区の保存計画策定の機運も次第に高まり、「その地区内に所在する古墳の分布状態を明らかにするとともに、１基を発掘調査してその内容を明らかにすることにより将来にわたる古墳群保存整備のための資料を得よう」ということになった。石見町では、これの具体的な方策として昭和56年度に国庫補助金を受け、ＣＤ地区における古墳の分布とその地籍の確認作業を進める一方、主脈の北寄りに所在するＤ23号墳の発掘調査を実施したのである。

3．発掘調査の概要

今回の発掘掘査は前述の趣旨で実施することになったのであるから、その対象となる古墳は中山古墳群の様相ができるだけ適確に把えられるものであることが要求された。古墳群の様相を把える上で最も重要なことは、それが形成された年代とその期間の確認である中山古墳群の場合、昭和51年の発掘調査によってＡＢ地区の古墳の様相が既に明らかにされ、その築造年代は４世紀後半～５世紀初頭に求められている。ＡＢ地区は丘陵の西南部に位置しているが、一方これと対象位置に当たる東北部ではかって大峠山古墳群と呼んでいたところから須恵器の樽形瓶の出土が伝えられている。これらのことから、中山丘陵における古墳の築造は西南側が早く東北側がおそいのではないかと予想し、東北側の古墳を調査すれば古墳群形成の時期的幅が把えられるであろうと考えた。そこで、保存状況が良好で且つ規模の大きい古墳をできるだけ東北寄りから選ぶこととし、その結果Ｄ23号墳を調査対象の古墳に決定したのである。

調査は、門脇が主任調査員となり、尼川尚明・吉川正・岡本貢・石橋典夫・駅場春樹の５氏を加えて調査団を編成し、石見町教育委員会を事務局としてこれに当たった。現地調査は昭和56年７月20日から同年８月29日の間をその期間とし、７月20日～同24日に下草刈り、７月25日～同26日に墳丘測量、７月27日に墳丘およびその周辺の清掃、７月28日～８月26日に発掘調査、８月28日～９月１日に埋戻し作業をそれぞれ実施した。この間には盂蘭盆や雨天のために作業を行わなかった日もあり、事務局以外の実動日数は31日となる。なお、埋戻しには主体部内に砂を入れてその明確な保存を図った。

４．Ｄ23号墳の概要

(1). 墳丘について

Ｄ23号墳は、丘陵上の自然の盛り上がりを利用して造った不整形な前方後円墳で、主軸をほぼ南北に置き、北側に前方部を付したものである。その規模は、全長約25ｍ、後円部径約19ｍ、同高さ 1.5 ～ 2.5ｍ、前方部長約６ｍ、同先端部幅約６ｍ、同くびれ部幅約 8.5ｍ同高さ約１ｍを測り、中山古墳群を構成している古墳の中では比較的大形に属する。その形状は、前方後円墳であるとはいっても前方部が極めて小さく、しかもその先端部が幅狭になっていて、所謂帆立貝形を呈している。

墳丘の築造法についてみると、先ず不整形な楕円上を呈する自然の盛り上がりの斜面を若干削って加工し、墳頂部を一応整形して墓壙を掘り、予定の埋葬を終えた後に10～25cm厚さに封土を覆って完成したもので、あまり丁寧な造りだとはいえず、築造に要した実際の労働力は外見的な規模の割には少なかったであろうと推測される。なお、墳頂部には花

崗岩質の母岩が突き出しているが、墓壙掘削前の墳頂部の整形の際にも、この部分はそのままにしていたようである。また地山の加工に当たっても、斜面を若干削って墓域を区割しているだけであり、そこには不整形な地山の盛り上がりを規則的に加工して墳形を整えようとする意図はまったくみられない。これらの点から考えると、この古墳の築造者の墳形に対する観念は、さして強いものではなかったのではないかと思われるのである。

次に封土の盛り方についてみると、この古墳ではあらかじめ予定されていた埋葬が全部終了した後に封土を覆っている。先ず墓拡内に遺体を安置すると、掘り出した土でそのまま墳壙を埋める。予定の人数の埋葬が終わると、露出している母岩の表面の凹部を埋めるように黄褐色系の色を呈する粘土を覆って墳頂部を整え、最後に砂粒まじりの薄い黒色味を帯びた化粧土を墳丘の全面に覆って仕上げている。前方部は、地山をほとんど加工せずに自然地形をそのまま利用し、地山上に10～30cmの厚さに黄褐色粘土を盛って方形の台を造り、その上に後円部と同様の化粧土を覆ったものである。化粧土は、後円部と前方部とを区別することなく、全面を一気に覆っている。この古墳の封土は、基本的には整形のための盛土と化粧土のの２層から成っているといえよう。

この古墳の墳丘で最も注意を引かれることは後円部の斜面が２段に加工されている事実である。下段の加工面はそのまま前方部とつながるので、これを以って墳裾とし、それをもとに前述の古墳規模を考えているのである。ところが、墳頂から約１ｍ下がったところにも今一つ加工がみられ、この段が描く円の規模は、南北径約15ｍ、東西径約12ｍを測る。この２つの段によって描かれる２つの円の中心は明らかにずれている。位置的にみて、この事実と内部主体の在り方とには深い関連があるように思われるが、詳細については後述することとしたい。

(2). 内部主体について

この古墳からは、後円部頂で５基、前方部で１基の計６基の主体内部が検出された。各主体の位置は図に示すとおりである。

才１主体　この主体部はＤ23号墳の中では最も整美な墓壙で、その規模は、底面長約２ｍ、同幅 0.6～0.7 ｍ、深さ33～37cmを測り、軸を西北～東南に置いている。床面は約1/29勾配で西北部が高く、また墳壙幅も西北側が広いことから、遺骸はこの方向に頭を置いて安置されていたものと思われる。この墳壙は、露呈している母岩に掘り込まれたもので、保存状態は極めて良好である。墓壙内には約30×35×20cm程の大きさで拳状を呈する石が落ち込んでいたが、この石は墓標石であった可能性が強い。墓壙内に木棺が安置されてい

いた痕跡は認められず、また遺物もまったく検出されなかった。

オ２主体　この墓壙は、オ１主体の南側約 0.5ｍの位置に、それとほぼ平行して掘り込まれている。その規模は、底面長約 1.7ｍ、同幅 0.4～0.6 ｍ、深さ20～29cmを測る。床面はほぼ水平に作られているが、東南端には堅い母岩の凸部を利用した枕が取り付けられており、墓壙の幅も東南側が広いことから、この方向に頭を置いて遺骸を安置したであろうと考えられる。木棺は使用されておらず、遺物もまったく検出されてはいない。かなり不整形な墓壙である。

オ３主体　オ３主体は、後円部のほぼ中央に墳丘の主軸と直交して営まれたもので、２段掘りの構造を備えている。外側の土壙はやや不整形で、底面長約 1.7ｍ、同幅0.5～0.7ｍ、深さ約30cmの規模である。内側の墓　はかなり小さく、底面約 1.3ｍ、同幅18～25cm上面からの深さ40～45cmを測り、比較的整美な作りで、床面はＵ字形を呈し、木棺使用の痕跡は認められない。この墓壙では、埋土の上面から古式土師器の小片が４片検出された

オ４主体　この墓壙は、後円部頂の最も北寄りの位置に営まれたもので、オ３主体とほぼ平行し、墳丘の主軸に直交させようとする意図がうかがえる。底面長約 1.7ｍ、同幅0.4～0.55ｍ、深さ40cmの規模を備え、床面は1/30勾配で西側が高く、また墓壙幅も西側が広いので、この方向に頭部を置いて遺骸を安置したものと思われる。遺物は検出されておらず木棺使用の痕跡も認められない。

オ５主体　後円部頂の東南隅に営まれた墓壙で、底面長約 1.5ｍ、同幅 0.5～0.7 ｍ、深さ30～35cmの規模を備え、墳丘の主軸にほぼ平行して作られている。
床面は1/26勾配で北側が高く、墓壙幅も北側が広いので、この方向に頭部を置いたものと思われる。堅い母岩に掘り込まれているのでその作りはやや荒いが、床面は比較的整美である。木棺使用の痕跡は認められず、遺物の検出もみてはいない。

オ６主体　前方部上面に営まれた墓壙で、底面長約 2.1ｍ、同幅 0.8～1.0 ｍ、深さ25～30cmを測る。主軸を西南西～東北東に置いているが、平面位置がオ３主体やオ４主体とほぼ平行に並ぶので、墳丘の主軸に直交させようとする意識があったのではないかと思われる。やや不整形であり、一部破損したところもある。墓壙幅は西南西側が広くなっているので、この方向に頭部が置かれていたであろう。遺物は検出されておらず、木棺使用の痕跡も認められない。

主体部とは別に、後円部頂の西南隅から焚火跡が検出されたことは注意されなければならない。この遺構は地山に径約60cm深さ約20cmの穴を掘ったもので、内部には木炭のまじ

った黒色灰が入っていた。また、西南側に灰をかき出した痕跡も認められた。

(3). 出土遺物について

この古墳から出土した遺物は、才３主体の埋土上から検出した４片の古式土師器の小片のみである。この小片は、その出土状況からみて才３主体に供献されたものであろうと考えられる。だが、４片の小片のみが供献されているというのはいかにも奇異な感じを受ける。しかし、邑智高原においては破砕した土器片を供献した墳墓の調査例がいくつか知られている。弥生後期の四隅突出型方形墓である順庵原１号墓（瑞穂町）では周溝内に設けられたストンサークルの周辺に破砕した土器片が規則的に配されていたし、土壙底に箱形石棺を安置した弥生後期の御華山墳墓の埋土上にも複数個の土器を破砕した小片が少量供献されていた。また古墳時代後期の長尾原土壌墓群（瑞穂町）才３土壌墓でも、埋土上に供献されていた少量の土師器片が検出された。これからの査例から、邑智高原においては弥生後期から古墳時代後期に至る間一貫して破砕した土器片を供献する葬送儀礼が継承されていたことを知るのであり、中山Ｄ23号墳才３主体の供献土器片もこのような伝統的埋葬祭祀の一貫として理解することができる。

この古墳から出土した４片の土器片は、あまりにも小片であるためにその器形や特徴を把えることが困難ではあるが、薄手で、胎土に砂粒を含み、内部をヘラ削りのみで調整していること等の特質を指摘することはできる。この土器片の時期をこれだけの特徴で位置付けることはむずかしいが、薄手であることから、古式土師器でも比較的古い時期のものであろうと思われる。

５．小結

前述したように、この古墳には前方部をも含めて６基の内部主体がある。これらの内部主体は各墓壙の主軸の方向から２類別することができる。その１つは古墳の主軸を意識したものであり、他の１つはこれとは無関係のものである。才３主体～才６主体は前者に属し、才１主体と才２主体は後者に属する。一方、この古墳の後円部斜面には２段の地山加工があり、それによって描かれる２つの円の中心にはずれがみられるが、才１主体は内円の中心に位置し、才３主体は外円の中心に位置する。しかもこの２基の主体部は、その規模や他の様相からみてそれぞその中心主体にふさわしいものである。このようにみると、内円と外円とは異質な区劃をあらわしていると考えられ、この場所に２度にわたって古墳が築造されたとみることができるのである。

昭和51年に行われたＡＢ地区の調査で、そこから検出された墓壙の多くが、その主軸を

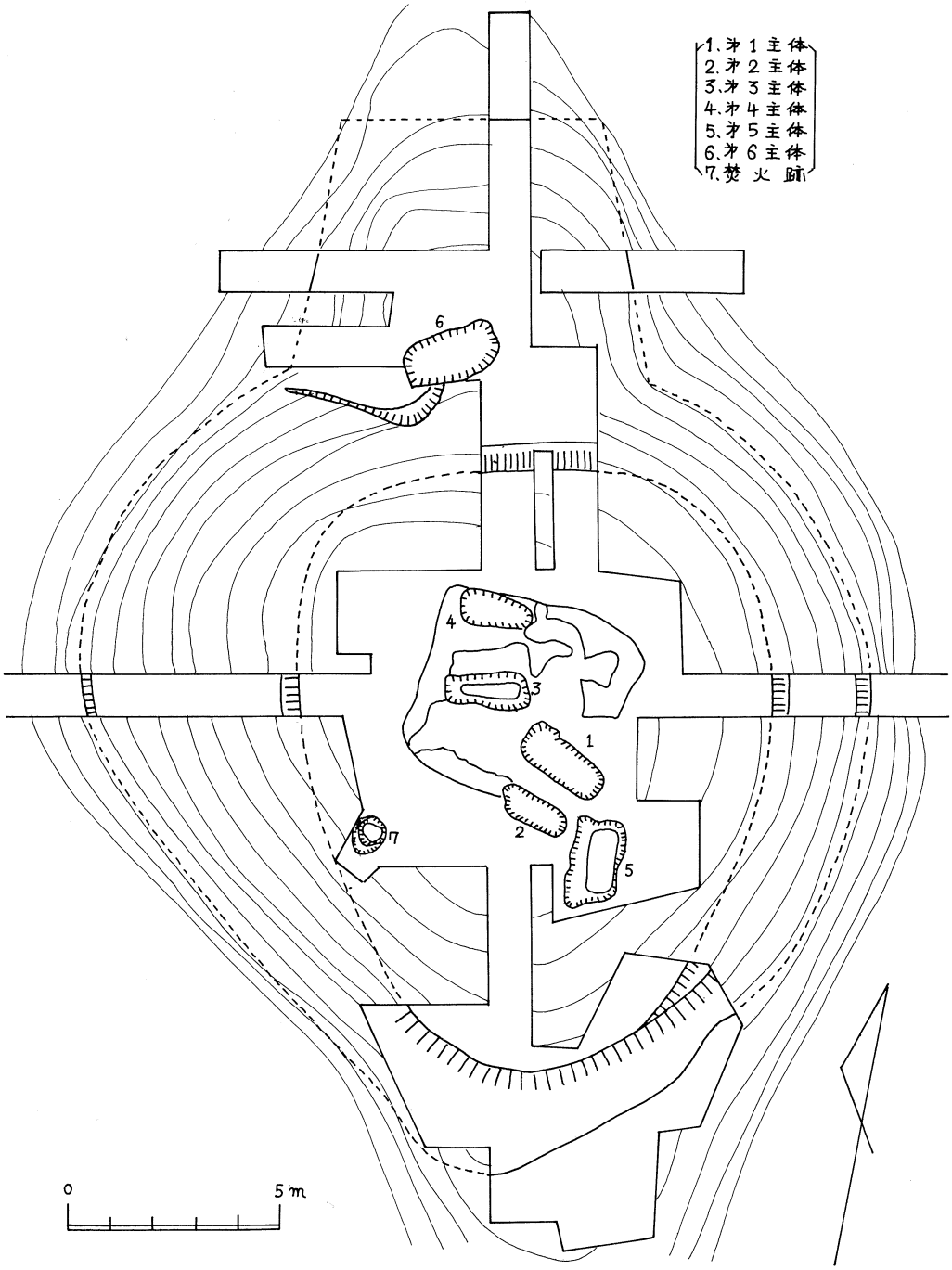
向歯無山に向けていることが指摘されている。向歯無山というのは、中山丘陵の西側に屹立する山で、ＡＢ地区の調査者はこの山を神名樋山に比定し、古い時期には墓壙を神名樋山に向ける風習があったとしている。ところが、５世紀前半の築造とみられるこの地区内の前方後方墳の主体部は、向歯無山とは無関係の方向を向いている。調査者は、この事実から、５世紀に入って墓壙を神名樋に向ける風習は失われたと考えたのである。

Ｄ23号墳においても、先に指摘したように墳丘の主軸を意図した墳墓群とそれとは無関係な墳墓群との両者が存在するが、後者に属する第１主体と第２主体はＡＢ地区の場合と同様にやはり向歯無山を向いている。つまり、内円区劃の古墳は向歯無山を意識して築造されたものであり、外円区劃の古墳はそれとは無関係に造られているということになる。遺物がほとんど出土していないこの古墳では、その性格等を考えるに当たってＡＢ地区の様相を考慮する必要があるが、墓壙の方向を規定する要因が向歯無山から墳丘軸へと移行したとする見方を肯定するとすれば、前方後円墳の築造に先立って内円の古墳が既に築造されていたとみなければならない。

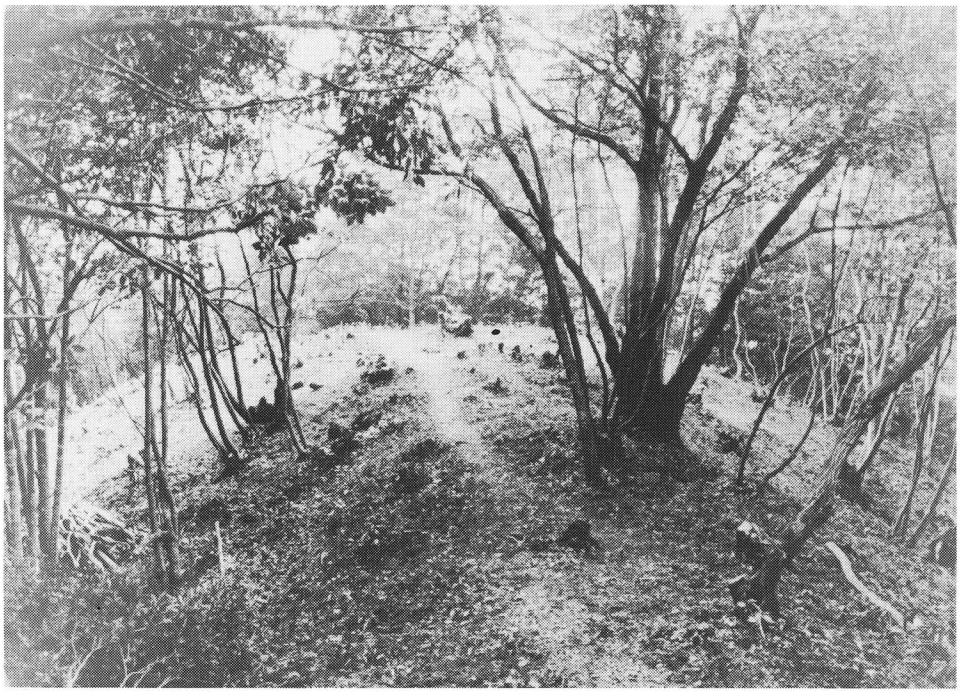
この古墳の築造年代については、そのきめ手となる遺物が極少であるために容易には決し難いが、遺構や土器片の諸様相からみてＡＢ地区の古墳の時期を大きく降ることはないと思われるのであり、中山古墳群全体が４世紀後半から５世紀前半にかけての比較的短期間に形成されたものであろうと考えられる。かって大峠山から須恵器の樽形瓶が出土したとする伝承を肯定したとしても、それは後出する一部の古墳の存在を意味するもので、この古墳群の大部分が須恵器出現以前に形成されたであろうことを否定するものではない。

しからば、何故にこの時期にかくも多数の古墳が築造されたのであろうか。前述したように、邑智高原においてはこの時期に集落数が増加し、しかもその規模が急速に拡大する。つまり、邑智高原における第１期の社会変革期に当たるのであり、中山古墳群の形成はこの社会的動向と関連しているのではないかとの想定に導かれるのである。しからば、その社会変革は何に起因するものであろうか。ここで考えられるのは鉄の量産体制である。この時期の鉄にかかわる生産跡は未だここでは知られてはいないが、それについての傍証はいくつかあげることができる。紙数の都合上、それについての記述は後の機会にゆずらざるを得ないが、中山古墳群の形成は邑智高原における鉄生産とのかかわりにおいて理解すべきだと思うのである。しかし、当時この地で生産された鉄の多くは地元には還元されずそれは６世紀後半にはじめて可能となり、このことが後に第２期の社会変革を招来した要因であったろうと考えられる。

中山D23号墳遺構配置図

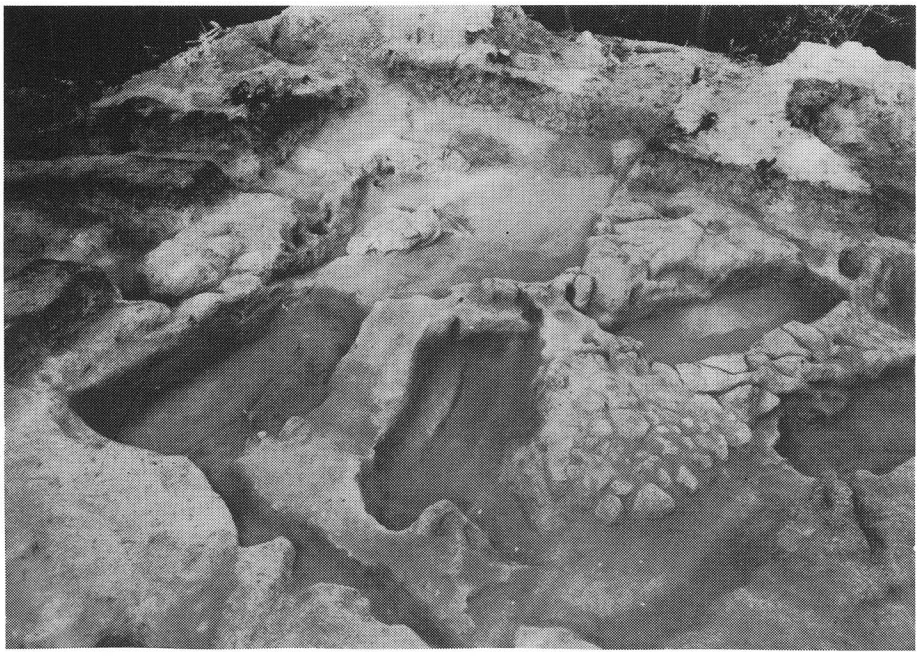


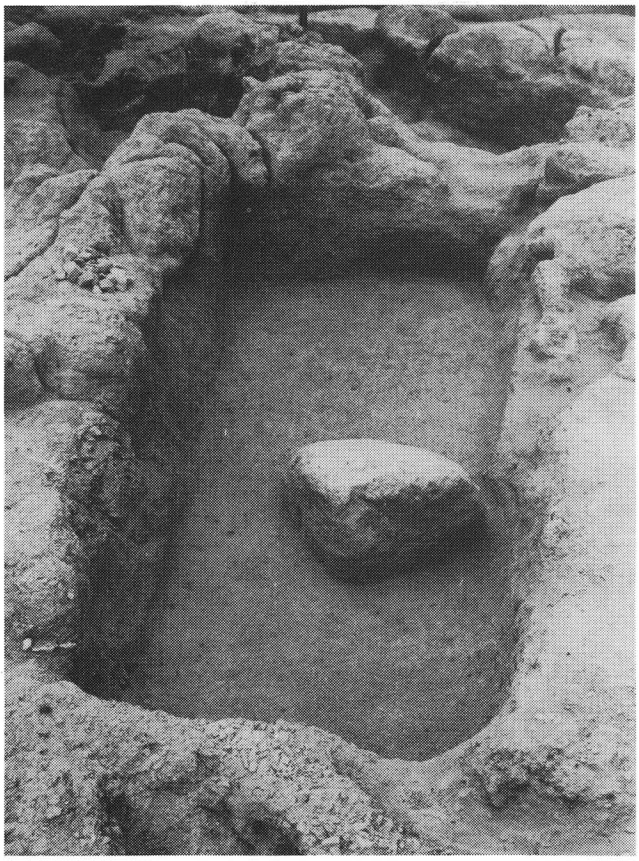
D23号墳写真と実測図



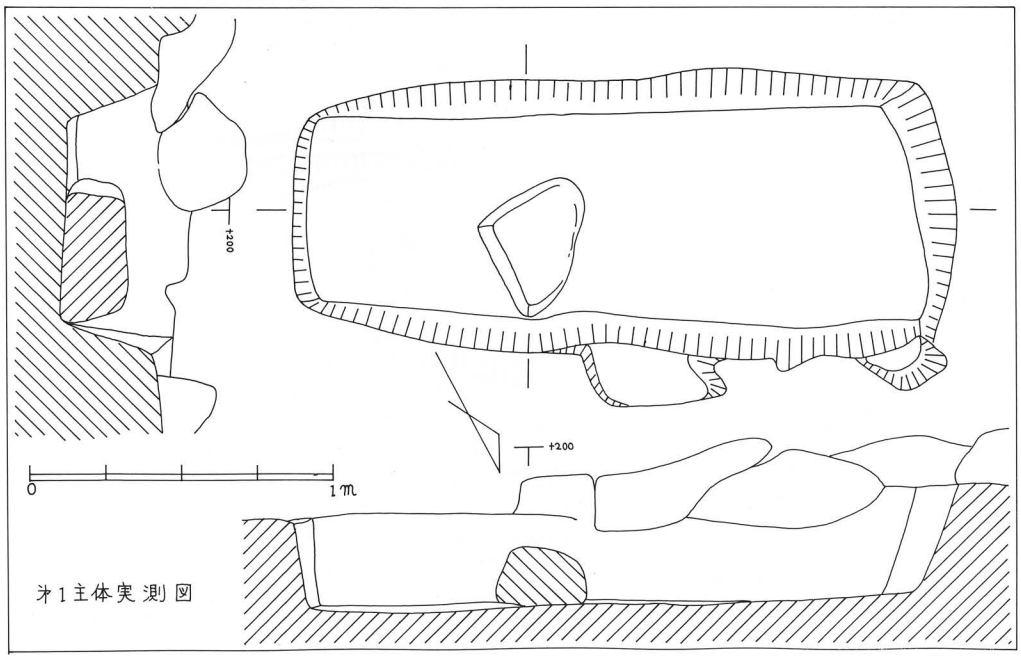
▲墳丘全景(調査前)

▼墳頂部の主体部配置



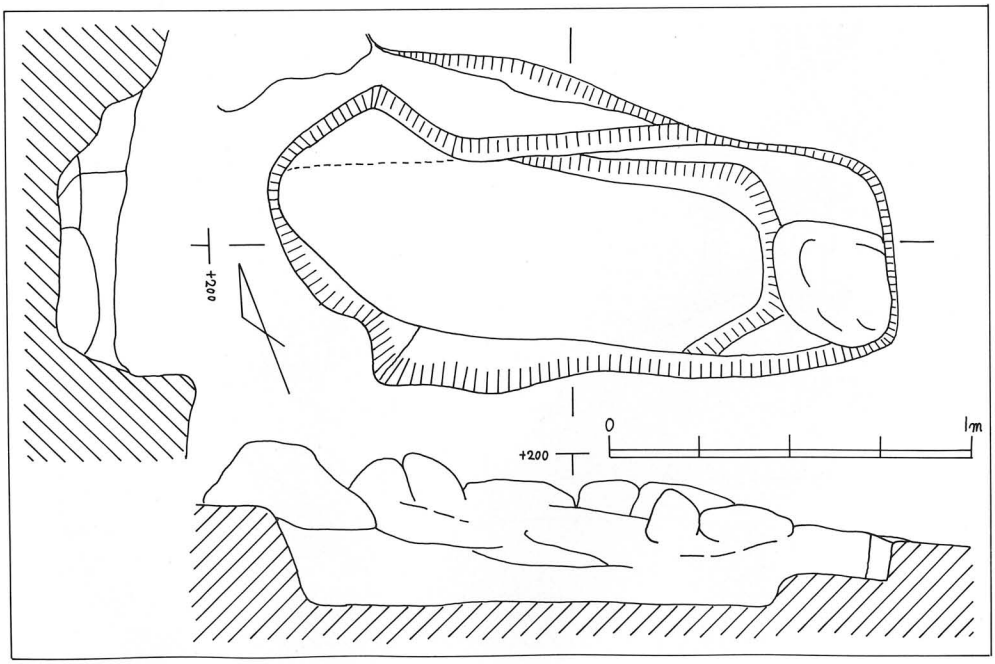


第一主体部

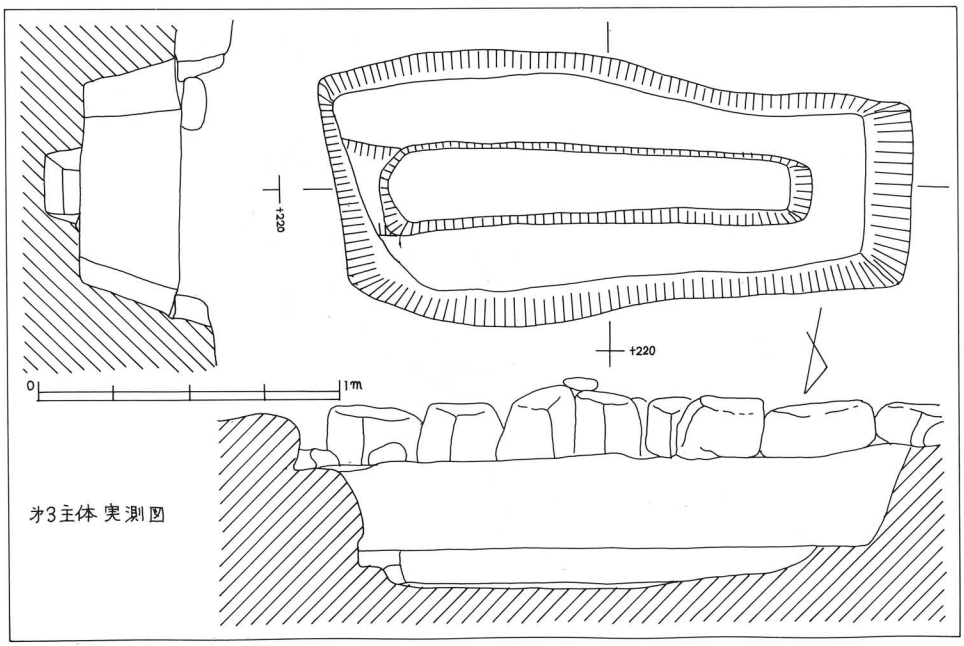


第1主体実測図

第二主体部

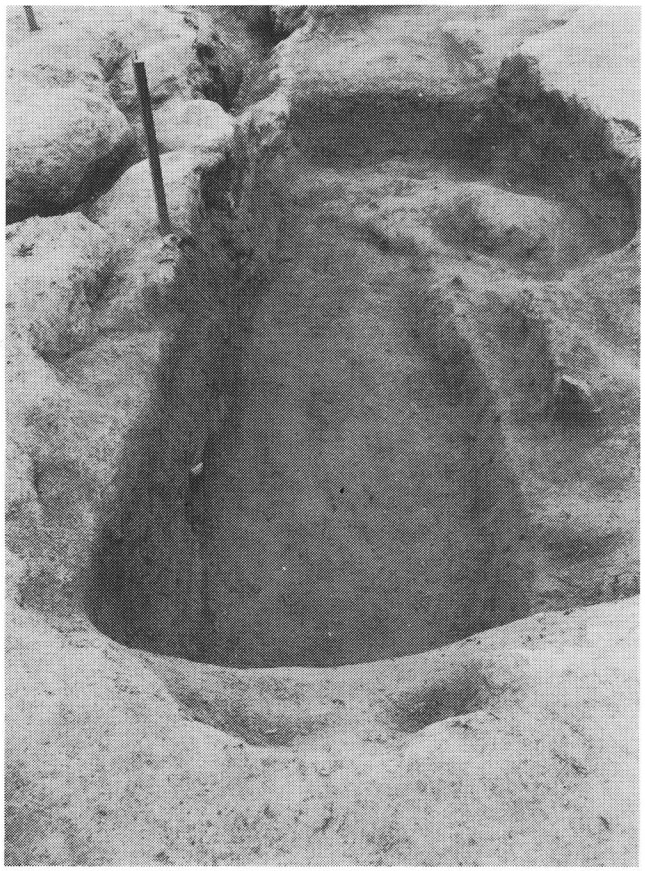


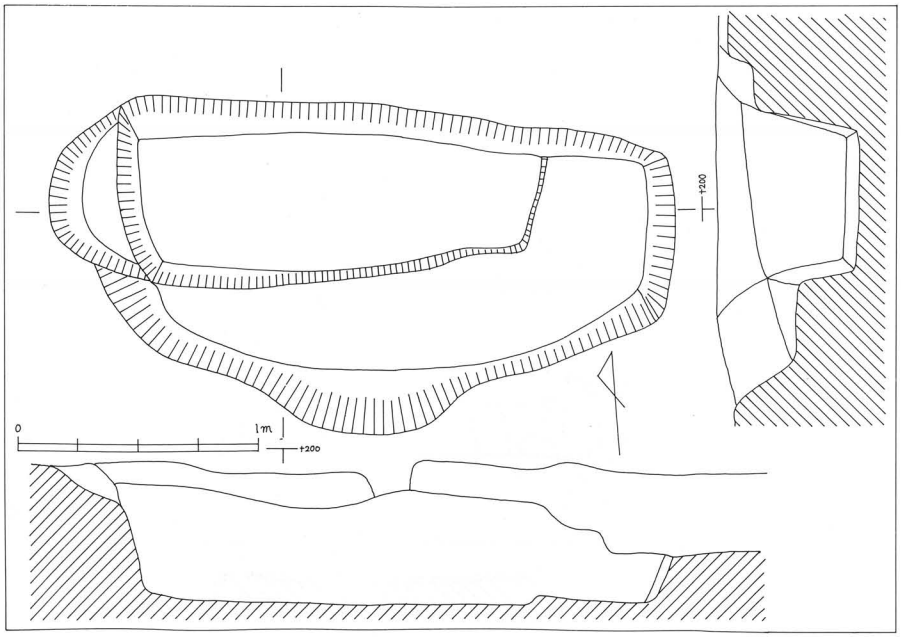
第三主体部



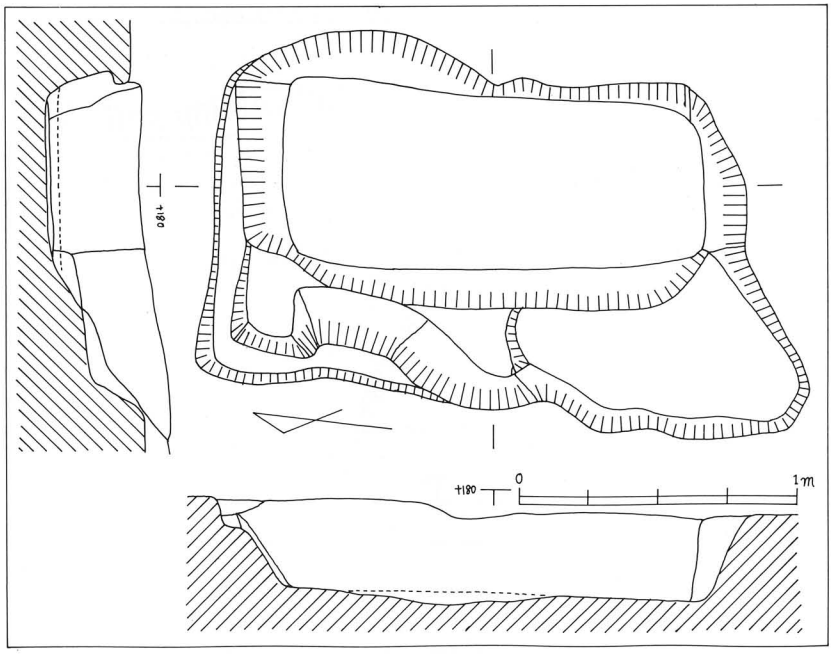
オ3主体 実測図

第四主体部

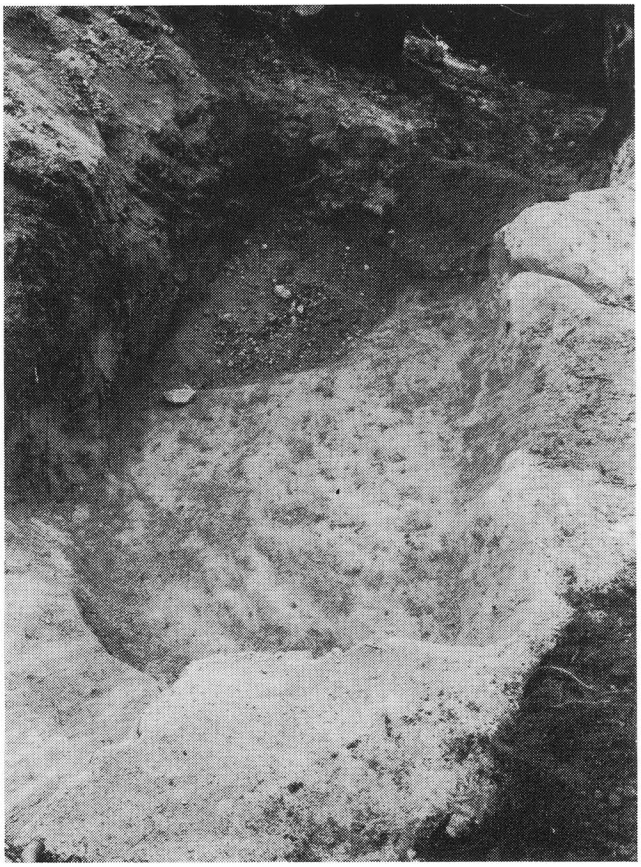


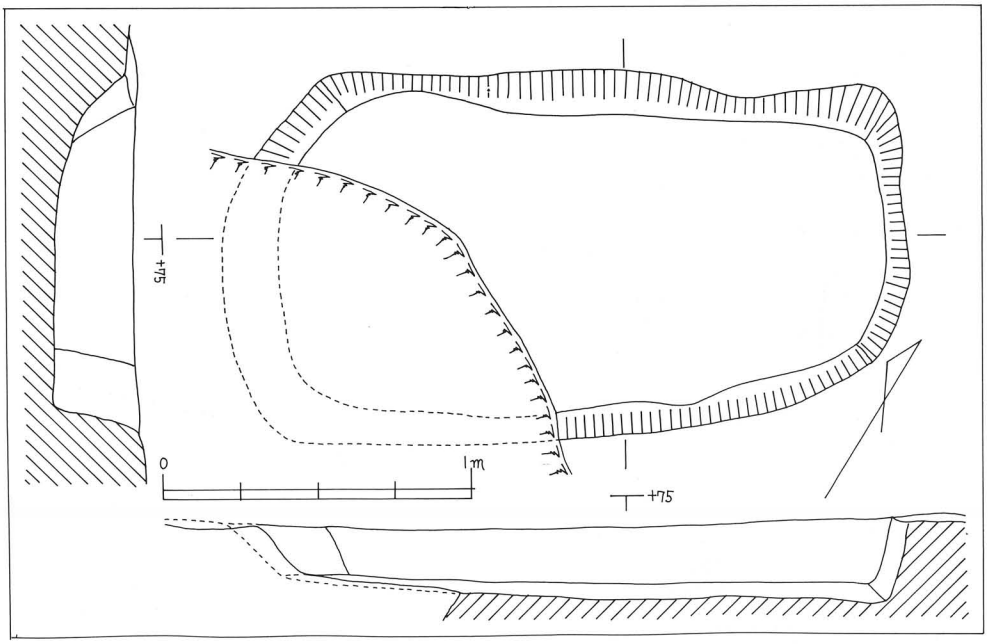


第五主体部



第六主体部





中山丘陵所有者一覧

番号	地　番	面　積	所有者　住所　氏名	現　況
1	3,149(の1)	4,492.00	渡　辺　大　三	山
2	3,151	12,534.00	稲　積　慎　吾　外1	山
3	1,230	305.00	矢　川　松　雄	11　畑
4	3,150－1	106.00	矢　川　松　雄	51　山
5	3,150	3,987.00	渡　辺　三五郎	51　山
6	3,151－1	62.00	稲　積　慎　吾　外1	51　山
7	1,229－1	130.00	矢　川　アキノリ	71原　野
8	1,220	471.13	矢　川　松　雄	20宅　地
9	3,148	113.00	矢　川　松　雄	11　畑
10	1,228－2	151.00	渡　辺　三五郎	90　墓
11	1,229－1	130.00	矢　川　アキノリ	71原　野
12	3146	14,434.00	矢　川　タミエ	51　山
13	3,147－1	135.00	酒　井　熊　市　　日和上郷1237	90　墓
14	3,147	5,994.00	酒　井　　徹　　皆井田	51　山
15	3,152	37,588.00	稲　積　慎　吾　外1	51　山
16	3,146－1	130.00	矢　川　松　雄	51　山
17	1,218	260.00	矢　川　松　雄	51　山
18	3,145	13,570.00	渡　辺　三五郎	51　山
19	3,143－2	2,157.00	森　広　武　夫　外1	51　山
20	3,143－3	1,705.00	森　広　武　夫　外1	51　山
21	3,143－1	1,817.00	今　宮　清五郎　　皆井田	71　山
22	3,142－3	1,034.00	宮　田　　博　　井原皆井田	51　山
23	3,142－2	205.00	宮　田　　博	51　山
24	3,142－4	100.00	宮　田　　博	51　山
25	3,142－1	172.00	中　垣　房　市	90　墓
26	3,141	4,559.00	三　浦　カズエ	51　山
27	1,208－2	36.00	宮　田　菊　人	51　山
28	1,204	452.00	渡　辺　三五郎	51　山

番号	地　番	面　積	所有者　住所　氏名	現　況
29	1,207－1	414.00	渡　辺　三五郎	51　山
30	1,203	103.00	渡　辺　三五郎	71原　野
31	2,118	281.00	渡　辺　秀　麿	11　畑
32	2,131	411.00	渡　辺　秀　麿	11　畑
33	2,119	229.00	北　野　松　夫　横見2215	11　畑
34	2,119－1	60.00	北　野　松　夫	11　畑
35	2,120	260.00	神　田　美千子	11　畑
36	2,121－1	995.00	酒　井　徹	71原　野
37	2,120－1	17.00	神　田　美千子	11　畑
38	2,121－2	89.00	酒　井　徹	71原　野
39	3,143－4	87.00	森　広　武　夫　外1	90　墓
40	1,202－4	115.00	今　宮　清五郎	90　墓
41	1,202－3	283.00	今　宮　マサヒコ　外1	11　畑
42	2,123－2	992.00	橋　田　稔　横見2135	51　山
43	2,123－1	119.00	橋　田　稔	71原　野
44	2,122－3	13.00	矢　川　ツネキチ	90　墓
45	2,123－3	37.00	橋　田　稔	90　墓
46	2,122－1	240.00	橋　田　稔	11　畑
47	2,122－2	80.00	藤　下　利　市	11　畑
48	2,122－4	44.00	藤　下　利　市	90　墓
49	2,123－4	78.00	橋　田　稔	71原　野
50	3,152－2	72.00	稲　積　慎　吾　外1	71原　野
51	1,201－1	248.00	稲　積　慎　吾　外1	71原　野
52	1,200	346.00	稲　積　慎　吾	51　山
53	2,124	912.00	農　林　省	51　山
54	2,125－1	98.00	農　林　省	51　山
55	1,200－1	375.00	稲　積　慎　吾　外1	51　山
56	1,197	1,109.00	稲　積　慎　吾　外1	71原　野
57	3,153－1	207.00	稲　積　慎　吾	20宅　地
58	1,199	369.00	稲　積　慎　吾　外1	71原　野

番号	地　番	面　積	所有者　住所　氏名	現　況
59	3,153－2	19,008.00	稲　積　慎　吾	51　山
60	1,198	628.00	稲　積　慎　吾	71原　野
61	1,196－1	160.00	稲　積　慎　吾　外1	71原　野
62	1,196－2	201.00	稲　積　慎　吾	71原　野
63	1,193	687.00	稲　積　慎　吾	71原　野
64	1,189	1,820.02	稲　積　慎　吾	20宅　地
65	2,130	214.00	橋　田　　稔	71原　野
66	2,129	256.00	橋　田　　稔	51　山
67	2,127－2	801.00	椿　　二五六　　中野	51　山
68	2,128	71.00	清　常　清　美	51　山
69	2,127－1	44.00	清　常　与　市	90　墓
70	2,127	160.00	椿　　二五六	51　山
71	2,126－1	84.00	沖　　フジシロウ	90　墓
72	2,126	41.00	酒　井　熊　一	51　山
73	3,679	2,333.00	酒　井　　徹	51　山
74	3,678	1,100.00	農　　林　　省	51　山
75	3,154－3	14,123.00	農　　林　　省	51　山
76	1,141	223.00	稲　積　慎　吾　外1	51　山
77	1,194－1	53.00	稲　積　慎　吾　外1	71原　野
78	3,672－2	29,808.00	橋　田　　稔	51　山
79	3,677	374.00	高　村　ク　マ	51　山
80	3,676	114.00	橋　田　ハルオ	51　山
81	3,674	134.00	酒　井　トクサブロウ	51　山
82	3,673	284.00	沖　　敏　夫　外1	51　山
83	3,673－3	99.00	沖　　敏　夫　外1	90　墓
84	3,673－1	25.00	沖　　シヨウジロウ	90　墓
85	2,147－1	356.00	酒　井　トクサブロウ	11　畑
86	3,673－2	132.00	酒　井　トクサブロウ	90　墓
87	3,155	4,137.00	稲　積　慎　吾　外1	51　山
88	3,154－2	127.00	稲　積　慎　吾　外1	90　墓

番号	地　番	面　積	所有者　住所　氏名	現　況
89	3,154－4	191.00	稲　積　慎　吾	90　墓
90	2,147－2	81.00	酒　井　トクサブロウ	71原　　野
91	3,156	4,172.00	稲　積　慎　吾　外1	51　山
92	2,151(の1)	71.00	神　田　春　夫	51　山
93	3,671－1	95.00	小笠原　治　實	90　墓
94	3,671	1,897.00	小笠原　威　若	51　山
95	3,670－2	175.00	奥　滝　吉　造	51　山
96	2,157－1	243.00	橋　本　治三郎	71原　　野
97	3,670－7	173.00	椿　　カメ子	51　山
98	3,672－3	65.00	椿　　二五六	51　山
99	3,670－4	33.00	椿　　イワサブロウ	90　墓
100	3,672－1	339.00	農　林　省	山
101	2,158－1	192.00	小笠原　威　若　　中野横見2152	51　山
102	3,158	4,956.00	稲　積　偵　介	51　山
103	2,159	419.00	上　田　ツ　ネ	51　山
104	3,669	270.00	上　田　ツ　ネ	51　山
105	3,660	5,635.00	沖　　幸　信	51　山
106	3,670－1	974.00	橋　本　秀　明	51　山
107	2,160	172.00	藤　田　カメイチ	51　山
108	3,666	2,138.00	小笠原　威　若	51　山
109	3,667	4,414.00	吉　賀　徳三郎	51　山
110	3,158－1	52.00	稲　積　慎　吾	71原　　野
111	3,159－1	2,182.00	石　川　房太郎	51　山
112	1,131－1	159.00	石　川　房太郎	51　山
113	3,159－2	92.00	石　川　房太郎	90　墓
114	3,160－2	26.00	服　部　　司　外1	90　墓
115	3,160－4	35.00	服　部　寅　夫　　西野原	90　墓
116	1,123	51.00	服　部　寅　夫	11　畑
117	3,160－1	3,475.00	服　部　寅　夫	51　山
118	3,662－3	13,246.00	沖　　幸　信	51　山

番号	地　番	面　積	所有者　住所　氏名	現　況
119	3,662－4	45.00	沖　　幸　信	90　墓
120	3,661	10,798.00	沖　　敏　夫　外1	51　山
121	3,160－3	2,764.00	服　部　寅　夫	51　山
122	1,124－2	126.00	服　部　寅　夫	90　墓
123	1,124－1	257.00	服　部　寅　夫	11　畑
124	1,121	659.00	石　川　房太郎	01　田
125	1,122	933.00	服　部　寅　夫	01　田
126	3,161－2	5,873.00	石　川　亀　市	51　山
127	3,161－1	2,956.00	石　川　房太郎	51　山
128	1,113	1,095.00	内　藤　センゾウ	71原　野
129	3,161－3	2,437.00	石　川　克　一	51　山
130	3,162－2	5,229.00	服　部　次之助	51　山
131	3,162－1	3,554.00	服　部　寅　夫	51　山
132	1,038	185.00	服　部　直　市	51　山
133	1,038－2	333.00	内　藤　センゾウ	71原　野
134	3,654	1,910.00	中　山　団　地	
135	3,657	3,570.00	兼　　常　磐　　井原1107	51　山
136	3,656	2,380.00	兼　　常　磐　　井原1107	51　山
137	3,652	11,402.00	中　山　団　地	
138	3,660	5,635.00	沖　　幸　信	51　山
139	2,177－2	149.00	石　　見　　町	60道　路
140	3,660－2	1,587.00	中　山　団　地	
141	3,659－2	3,019.00	中　山　団　地	
142	3,659－3	462,00	中　山　団　地	
143	1,038－1	162.00	内　藤　センゾウ	71原　野
144	3,659－4	612.00	中　山　団　地	
145	2,239－2	534.00	渡　辺　恒　知	51　山
146	2,239	200.00	中　山　団　地	
147	2,239－1	3,976.00	原　野　清　治　　横見2212	51　山
148	3,165－2	97.00	兼　　常　磐	71原　野野

番号	地　番	面　積	所有者　住所　氏名	現　況
149	2,238	7,014.00	原　野　清　治	11　畑
150	3,659－1	102.00	中　山　団　地	
151	2,227－1	3,699.00	槙　　繁　好　　段原1993	51　山
152	3,657	4,169.00	中　山　団　地	
153	2,226			
154	2,226－1	255.00	沖　　秋太郎	01　田
155	2,245	5,159.00	沖　　幸　信	11　畑
156	2,227	3,485.00	中　山　団　地	
157	3,658	4,404.00	中　山　団　地	
158	2,235－1	2,367.00	椿　　忠　夫　　河原城1008－3	51　山
159	2,236	847.00	中　山　団　地	
160	3,163－1	3,723.00	服　部　　昭	51　山
161	1,039－1	32.00	服　部　次之助	51　山
162	3,164	960.00	柳　光　芳　信　　井原西野原	51　山
163	3,653	5,171.00	中　山　団　地	
164	3,165		兼　　常　磐	
165	3,651	11,216.00	森　田　房　雄　　中野段原2011	11　畑
166	3,651－1	582.00	中　山　団　地	
167	2,228			
168	2,228－3	1,840.00	石　　見　　町	60道　　路
169	2,229－1	1,084.00	沖　　秋太郎　　中野横見2225	11　畑
170	2,229	259.00	中　山　団　地	
171	2,230－1	1,625.00	沖　　秋太郎	51　山
172	3,635	4,076.00	沖　　イ　ワ　外1	51　山
173	3,636－6	53.00	渡　辺　カメハル	90　墓
174	3,637－4	3,860.00	中　山　団　地	
175	3,631－1			
176	2,244	1,266.00	中　山　団　地	
177	2,244－2	112.00	石見町土地改良区	92用悪水路
178	3,634	640.00	酒　井　鶴　市	51　山

番号	地　番	面　積	所有者　住所　氏名	現　況
179	3,636－5	5,648.00	中　山　団　地	
180	3,634－1	55.00	原　野　トクジ	90　墓
181	3,637－2	3,957.00	中　山　団　地	
182	2,244－1	4,521.00	渡　辺　恒　知	11　畑
183	2,243－2	2,814.00	石見町土地改良区	60道　路
184	2,243	1,820.00	中　山　団　地	
185	3,640	4,932.00	中　山　団　地	
186	3,641	9,876.00	中　山　団　地	
187	2,230－2	1,567.00	島根県農業開発公社	51　山
188	2,230	2,318.00	中　山　団　地	
189	2,233	5,073.00	椿　　忠　夫	11　畑
190	3,166	9,803.00	柳　光　芳　信	51　山
191	3,167	543.00	宮　岡　清四郎	51　山
192	1,031－1	108.00	柳　光　芳　信	
193	1,031	1,176.00	柳　光　芳　信	51　山
194	道			
195	3,164－2	43.00	柳　光　芳　信	90　墓
196	3,171	434.00	服　部　次之助	51　山
197	3,172	14,913.00	柳　光　正　木　　井原西野原	51　山
198	1,026	273.00	服　部　次之助	51　山
199	1,028	713.00	柳　光　正　木	51　山
200	1,023	36.00	柳　光　正　木	51　山
201	3,633			
202	3,632	110.00	橋　田　ヒロアキ	51　山
203	3,630－12	1,335.00	熊　山　晴　夫　　中野幸米2257	51　山
204	3,630－5	1,552.00	椿　　二五六	51　山
205	3,630－6			
206	3,638－3	468.00	中　山　団　地	
207	3,637－3	14,919.00	中　山　団　地	
208	2,243－1	596.00	吉　賀　利　一　　中野幸米2266	11　畑

番号	地　番	面　積	所有者　住所　氏名	現　況
209	2,242	4,699.00	吉　賀　利　一　　中野幸米2266	51　山
210	2,241－1	4,793.00	吉　賀　利　一　　中野幸米2266	51　山
211	2,241－2	742.00	吉　賀　利　一　　中野幸米2266	11　畑
212	2,240	347.00	中　山　団　地	
213	3,639	25,092.00	中　山　団　地	
214	3,642	5,232.00	中　山　団　地	
215	3,643	1,670.00	中　山　団　地	
216	2,644			
217	2,231	4,911.00	中　山　団　地	
218	3,650	1,516.00	中　山　団　地	
219	3,649	1,354.00	中　山　団　地	
220	3,648	5,437.00	中　山　団　地	
221	2,232－1	2,991.00	石見町土地改良区	雑　種　地
222	3,645			
223	3,647－1	2,550.00	中　山　団　地	
224	3,170			
225	3,177	680.00	掛　川　米　市　　西野原	51　山
226	1,008	305.00	柳　光　政　木	51　山
227	1,006－1	97.00	野　坂　忠　雄　　井原2208	71原　　野
228	4,087－3	283.00	大　屋　タダミ	51　山
229	4,087－4	50.00	土地改良区	60道　　路
230	3,176－1	166.00	小笠原　長　蔵	51　山
231	3,176－3	60.00	原　田　豊　市　　井原下町2223	90　墓
232	1,006－2	26.00	井　上　敦　博　　井原上町2250	71原　　野
233	4,087－1	9.91	大　屋　セイイチ	11　畑
234	1,006－3	22.00	日野山　タカイチ	71原　　野
235	4,087－2	181.00	オオヤ　クニオ	51　山
236	1,010	66.00	柳　光　政　木	51　山
237	1,010－1	29.00	香　川　アキラ(章)	90　墓
238	3,176－2	125.00	柳　光　重　春	51　山

番号	地　番	面　積	所有者　住所　氏名	現　況
239	3,178－2	406.00	服　部　　猛	51　山
240	3,178－4	28.00	掛　川　弥　吉	90　墓
241	3,178－3	41.00	服　部　岩　市	90　墓
242	3,178－1	2,743.00	掛　川　米　吉	51　山
243	3,179	764.00	日野山　ケンイチ	51　山
244	3,180	2,083.00	平　田　　豊	51　山
245	4,088			
246	1,002－1	290.00	服　部　トヨサダ(豊定)	51　山
247	3,182－2	1,012.00	藤　田　文九郎	山
248	3,182－3	31.00	藤　田　文九郎	90　墓
249	3,181	601.00	日野山　岡　治	51　山
250	3,185	1,210.00	服　部　　猛　　井原西野原	51　山
251	977－1	101.00	服　部　次之助　　井原西野原	11　畑
252	3,184	279.00	服　部　良　子　　井原西野原	山
253	3,183	166.00	服　部　良　子　　井原西野原	山
254	977	45.00	服　部　次之助	11　畑
255	976－1	234.00	服　部　市五郎	11　畑
256	980	389.00	三千田　正　義　　井原宮野原	51　山
257	976－2	54.00	服　部　市五郎	90　墓
258	979－2	17.00	服　部　市五郎	90　墓
259	975－1	116.00	服　部　次之助	11　畑
260	975－2	21.00	服　部　次之助	90　墓
261	3,186－2	14.00	兼　　耕　作	90　墓
262	974	14.00	兼　　常　磐	90　墓
263	3,186－1	2,292.00	兼　　常　磐	51　山
264	3,185－1	4,215.00	鳥　居　大　二	51　山
265	3,187－1	503.00	鳥　居　大　二	51　山
266	3,187	1,994.00	前　田　　工(タクミ)	51　山
267	887	305.00	穂　積　義　富　　井原下町2203	51　山
268	887－1	24.00	穂　積　新三郎	90　墓

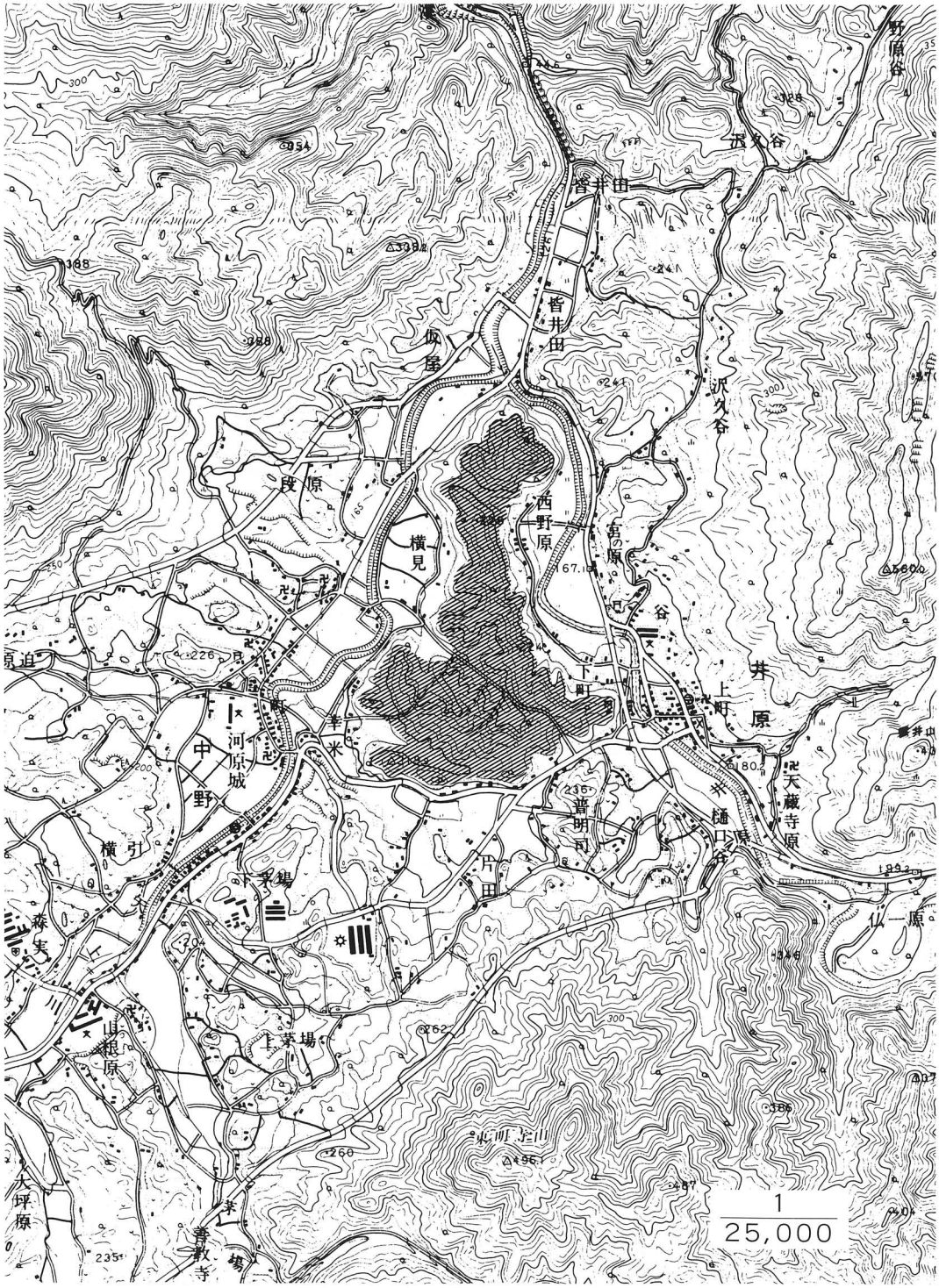
番号	地　番	面　積	所有者　住所　氏名	現　況
269	3,188	1,152.00	鳥　居　大　二	51　山
270	875	24.00	鳥　居　大　二	90　墓
271	873	2,880.00	鳥　居　大　二	51　山
272	3,189	3,741.00	鳥　居　大　二	51　山
273	869	291.00	鳥　居　大　二	71原　野
274	813－1	36.00	森　岡　勘　太	90　墓
275	3,191－2	51.00	鳥　居　甚一郎・鳥　居　涼　市	51　山
276	868	39.00	鳥　居　大　二	90　墓
277	871	152.00	鳥　居　ユ　キ	71原　野
278	866－4	10.00	鳥　居　大　二	90　墓
279	866－3	311.00	鳥　居　大　二	71原　野
280	866－1	186.20	森　岡　　博	20宅　地
281	3,191－3	8,911.00	半　田　充　彬	51　山
282	3,136－10			
283	3,631－4	421.00	橋　本　文　武　　中野幸米2258	71原　野
284	3,631－3	74.00	橋　本　文　武　　中野幸米2258	90墓　地
285	3,631－11	30.00	吉　賀　靖　几　　中野	90墓　地
286	3,631－9	11,069.00	熊　山　晴　夫	51　山
287	3,630－7	1,339.00	中　山　団　地	
288	3,630－9	932.00	中　山　団　地	
289	3,630－11	967.00	中　山　団　地	
290	3,629			
291	3,629－2	22.00	野　田　ヨシゾウ	90　墓
292	3,631－8	709.00	野　田　ヨシゾウ	11　畑
293	3,629－4	17.00	熊　山　晴　夫	51　山
294	3,629－3	381.00	原　　重　夫　　中野幸米2345	51　山
295	3,628－2	1,295.00	宮　田　政　樹	11　畑
296	3,628－1	2,162,00	沖　　マツコ	11　畑
297	3,627－1	4,185.00	沖　　二　信	11　畑
298	3,624－2	1,258.00	高　村　ク　マ　　中野横見2177	11　畑

番号	地　番	面　積	所有者　住所　氏名	現　況
299	3,626－1	6,378.00	栗　岡　藤太郎　　中野段原2050	11　畑
300	3,621－3	581.00	石　見　町	60道　路
301	3,626－2	113.00	坂　根　忠　利	90　墓
302	3,627－2	48.00	渡　辺　ユウジ(雄治)	90　墓
303	3,627－4	91.00	渡　辺　ユウジ(雄治)	51　山
304	2,281－1	65.00	渡　辺　定　一　　中野幸米3601	42ため池
305	2,279－1	587.00	渡　辺　定　一　　中野幸米3601	01　田
306	2,279－2	97.00	渡　辺　定　一　　中野幸米3601	51　山
307	2,278－2	696.00	服　部　　悟	01　田
308	2,282－2	2,282.00	渡　辺　定　一	01　田
309	3,625	4,597.00	中　山　団　地	
310	2,280	233.00	坂　根　忠　利	51　山
311	3,618－11	359.00	服　部　ジロキチ	90　墓
312	3,619	898.00	竹　林　　一	51　山
313	3,618－5	12,272.00	中　川　利　子	51　山
314	2,295－1	337.00	吉　賀　靖　丸	51　山
315	2,296－1	32.00	渡　辺　秋　義	51　山
316	3,620－1	9,696.00	坂　根　忠　利	山
317	3,620－3	144.00	坂　根　三　作	墓
318	3,204－5		渡　辺　秋　義　　中野幸米2294	山
319	3,203－5		渡　辺　秋　義	山
320	3,622－7	997.00	石見町土地改良区	60道　路
321	2,283	2,878.00	島根県農業開発コウシヤ	01　田
322	2,281	420.00	島根県農業開発コウシヤ	01　田
323	3,623－2	41.00	渡　辺　ヨシノ	71原　野
324	3,620－2	5,026.00	渡　辺　　誠	51　山
325	3,202－1	2,984.00	下　田　早　次	51　山
326	3,199－5	142.00	下　田　早　次	51　山
327	3,199－1	775.00	下　田　早　次	51　山
328	3,199－3	1,036.00	松　川　　譲　　井原	山

番号	地　番	面　積	所有者　住所　氏名	現　況
329	3,622－5	70.00	石　見　町	92用悪水路
330	2,284－2	347.00	渡　辺　　誠	71原　　野
331	2,284－1	1,890.00	島根県農業開発コウシヤ	01　田
332	2,284－3	219.00	渡　辺　　誠	71原　　野
333	3,620－4	67.00	渡　辺　　誠	11　畑
334	3,621－3	581.00	石　見　町	60道　　路
335	3,622－3	4,144.00	沖　　幸・伸	11　畑
336	3,621－2	449.00	渡　辺　ヨシノ	42ため池
337	3,622－1	5,616.00	坂　根　忠　利	11　畑
338	3,621－4	410.00	農　林　省	11　畑
339	3,621－5	267.00	農　林　省	51　山
340	3,621－6	55.00	農　林　省	11　畑
341	3,198－12	1,080.00	菅　野　寅　一　　井原片田320	51　山
342	3,198－32	79.00	菅　野　寅　一　　井原片田320	51　山
343	3,198－2	197.00	菅　野　寅　一	51　山
344	3,621－1	6,956.00	農　林　省	51　山
345	3,198－35	1,185.00	渡　辺　生　紀　　井原普明寺	51　山
346	3,198－34	28.00	渡　辺　生　紀　　井原普明寺	90　墓
347	3,198－14	87.00	藤　岡　ユ　タ	90　墓
348	3,198－36	77.00	高　村　梅次郎	90　墓
349	3,198－13	2,743.00	高　原　照　夫　外1	山
350	2,232－2	660.00	石見町土地改良区	92用悪水路
351	3,646－1	3,193.00	森　田　房　雄	11　畑
352	3,195	3,458.00	藤　岡　ユ　タ	51　山
353	3,646－2	1,908.00	石　見　町	60道　　路
354	3,195－1	1,115.00	日　高　末　松	51　山
355	3,196－1	4,743.00	仁　柿　文　夫	山
356	3,198－21	896.00	高　村　　實	山
357	421	554.34	高　村　　實	20宅　　地
358	420－5	111.00	高　村　　實	20宅　　地

番号	地　番	面　積	所有者　住所　氏名	現　況
359	430－2	47.00	仁　柿　文　夫	11　畑
360	3,647－2	2,779.00	中　山　団　地	
361	3,191－5	5,885.00	祐　未　文太郎　　中野町1079	51　山
362	3,194－1	1,054.00	日　高　数　一　　井原普明寺	山
363	3,195－2	100.00	日　高　末　松	90　墓
364	3,196－2	91.00	仁　柿　文　夫	90　墓
365	430－3	448.00	仁　柿　文　夫	71原　野
366	3,794－2	59.00	服　部　ヨシノリ(昌規)	90　墓
367	3,196－3	28.00	仁　柿　春　男	90　墓
368	439－1	49.00	松　島　ト　キ	90　墓
369	435－1	149.00	仁　柿　文　夫	71原　野
370	439－2	153.00	松　島　ト　キ	71原　野
371	3,192	2,010.00	森　岡　スエイチ(末市)	51　山
372	3,193			
373	435－2	129.00	仁　柿　フミオ	11　畑
374	854－1	52.00	松　島　誠　治　　井原普明寺	71原　野
375	854－2	36.00	松　島　誠　治　　井原普明寺	71原　野
376	3,192－1	121.00	森　岡　スエイチ(末市)　　普明寺	11　畑
377				
378				
379				
380				
381				
382				
383				
384				
385				
386				
387				
388				

中山丘陵位置図


野原谷
沢久谷
皆井田
仮屋
段原
西野原
横見
宮の原
谷
井原
上町
下町
天蔵寺原
樋口
普明寺
中野
河原城
横引
下茅場
森実
上茅場
山根原
大坪原
青教寺
仏原
1
25,000

石見町教育委員会所蔵